

METHOD FOR MOLDING AND GROWING LAWN GRASS

Patent number: JP1148122
Publication date: 1989-06-09
Inventor: ISHIZUKA MAKOTO; IWAKI ISAO; MATSUI ISAO
Applicant: KUREHA CHEMICAL IND CO LTD
Classification:
- **international:** A01C7/00; A01G1/00; A01C7/00; A01G1/00; (IPC1-7): A01G1/00
- **european:**
Application number: JP19870306171 19871203
Priority number(s): JP19870306171 19871203

Report a data error here

Abstract of JP1148122

PURPOSE:To mold and grow lawn grass into an optional and desired shape, by placing a paper pattern cut out to a desired shape on rock wool or wood pulp laid in a box and sowing seeds of lawn grass in the cut part. **CONSTITUTION:**A paper pattern cut out to a desired shape is placed in rock wool or wood pulp laid in a box. Seeds of lawn grass and water are added and mixed with a granular cultivation soil, adjusted to pH 6-7 and granulated to 1-4mm grain diameter and the seeds are sowed in the cut out part of the paper pattern. The sowed seeds are then covered with the above-mentioned granular cultivation soil to mold and grow the lawn grass. Rock wool used in place of bed soil is prepared by forming mineral fibers consisting essentially of silicic acid into the form of a mat and wood pulp formed into the form of the mat is also used. Since the rock wool or wood pulp is industrially produced, pathogenic germs and seeds of weeds are not contained as opposed to soil and readily handleable with light weight. Air and water permeabilities are rich and lawn grass can be always uniformly grown without a difference in growth thereof.

Data supplied from the **esp@cenet** database - Worldwide

⑨ 日本国特許庁(JP)

⑩ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報(A)

平1-148122

⑤ Int.Cl.⁴

識別記号

庁内整理番号

④ 公開 平成1年(1989)6月9日

A 01 G 1/00

3 0 1

C-8602-2B

審査請求 未請求 発明の数 1 (全4頁)

⑭ 発明の名称 芝草を造形育生する方法

⑰ 特 願 昭62-306171

⑱ 出 願 昭62(1987)12月3日

⑲ 発 明 者 石 塚 諒 福島県いわき市金山町汐見台98-1

⑲ 発 明 者 岩 城 功 福島県いわき市金山町汐見台89

⑲ 発 明 者 松 井 勇 男 福島県いわき市勿来町白米林の中30-74

⑳ 出 願 人 呉羽化学工業株式会社 東京都中央区日本橋堀留町1丁目9番11号

㉑ 代 理 人 弁理士 川口 義雄 外2名

明 細 書

1. 発明の名称

芝草を造形育生する方法

2. 特許請求の範囲

箱に敷き詰められたロックウール又は木材バルブ上に所望の形状を切り抜いた型紙を置き、pH 6～7に調整され、かつ、粒径1～4mmに造粒された粒状培土に芝草の種子と水を加えて混合して、前記型紙の切り抜かれた部分に播種して後、前記粒状培土を覆土することを特徴とする芝草を造形育生する方法。

3. 発明の詳細な説明

利用分野

本発明は芝草の育生方法に関し、詳しくは箱に敷き詰められたロックウール又は木材バルブ上に所望の形状を切り抜いた型紙を敷き、その切抜かれた部分に芝草の種子を播種することにより芝草

を所望の形状に造形育生する方法である。

従来の技術

従来、芝草は平坦な圃場を耕転、施肥、整地した所に播種して芝草を育生し、その四角に切り取られた芝草ソッドを所定の大地に敷き詰めるように移植して利用されるのが普通である。他の方法として水稲稚苗用育生箱に山土又は粒状培土を床土として芝草ソッドを生育させる方法も知られている。しかし、いずれの方法によっても四角い芝草ソッドとして利用されるものであって、任意の形状に芝草を育生させようとする提案はなかった。

発明が解決しようとする課題

本発明は、例えば高層住宅のバルコニー等で芝草を育生することに適し、しかも芝草を任意かつ所望の形状に育生する方法を提供することを目的とする。

課題を解決するための手段

本発明は、箱に敷き詰められたロックウール又は木材パルプ上に所望の形状を切り抜いた型紙を置き、pH 6～7 に調整され、かつ、粒径1～4 mmに造粒された粒状培土に芝草の種子と水を加えて混合して、前記型紙の切り抜かれた部分に播種した後、前記粒状培土を覆土することにより芝草を造形育生する方法である。

以下本発明を詳しく説明する。

本発明で用いる粒状培土は予めpH 6～7 に調整された土壌を粒径1～4 mmに造粒したものである。望ましくは肥料成分として化学肥料を0.01～2重量%含有させる。更に詳しく言えば、硝酸態窒素0.002～0.006重量%、アンモニア態窒素0.03～0.04重量%、全燐約0.2重量%、水溶性カリ0.04～0.08重量%及び枸溶性マグネシウム0.02重量%以上含むものが好ましい。このように粒状培土に

れておらず、又軽量で取扱い易く、通気通水性に富み、芝草の生育の生育差がなく、常に一樣に生育させることができる。更にロックウール又は木材パルプは覆土として用いる粒状培土が崩壊した場合においても基材として作用し、泥水を排出させない利点を有し、高層住宅のベランダ等で生育させるのに好都合である。

ロックウール又は木材パルプを予め箱に1～5 cm、好ましくは、2～3 cmの厚さに敷き詰めておき、この上に任意かつ所望の形状を切り抜いた型紙を置き、この型紙の切り抜いた部分に芝草種子を前記粒状培土に水と共に加え、均一に混合して播種する。芝草種子と粒状培土、水の混合割合は芝草種子1 gを粒状培土40～60 g、水6～10 gに混合するのがよく、この割合をはずれると均一な播種がし難くなる。即ち上述の割合で芝草種子、粒状培土及び水を混合することにより、種子と粒

肥料を含有させておくことにより播種後約1月は施肥を必要とせず省力化される。土壌は造粒する前にpH 6～7 に調整する。このようなpH範囲が芝草の発芽、生育に適しており、水稲稚苗育生用に用いられる粒状培土のようにpH 4.5～5.5 に調整されたものは芝草の生育には好ましくない。粒状培土のpHが前記範囲をはずれると生育障害が出るなど好ましくない。

粒状培土の粒径としては1～4 mmのものが適している。1 mmより小さく、又は4 mmより大きいと分級し、播種むらの原因となり易いので好ましくない。

床土の代りとして用いるロックウールは珪酸を主とする鉱物繊維をマット状に成形したものであり、木材パルプもマット状に成形したものをを用いる。ロックウール又は木材パルプは工業的に作られるため、土壌と異なり病原菌、雑草種子が含ま

れる。粒状培土が混ざり合っ分級し難くなるとともに播種に適した流動性を有する混合物となることにある。

以下実施例により具体的に説明する。

実施例 1

底部に排水孔を有する箱（内法 172 cm × 72 cm × 5 cm）に厚さ2 cmのロックウールを敷き詰め、その上に第1図に示す形状を切り抜いた型紙をおき、この切り抜かれた部分に予めベントグラス種子10 g、粒状培土500 g、水80 gを均一に混合したものをを用いて播種し、粒状培土を約5 cmの厚さに覆土して南向きのベランダに置いた。

尚、用いた粒状培土は肥料成分として硝酸態窒素0.006重量%、アンモニア態窒素0.032重量%、全燐0.211重量%、枸溶性マグネシウム0.02重量%、水溶性カリ0.068重量%含有し、pH 6.5に調整された土壌を粒径1～4 mmに造粒したものであ

る。

発芽は8月の気候において播種後4日目まで約1日に型紙通りの形状に斉一な発芽をみた。発芽後1日1回灌水した。播種後15日目の芝草の状態を第2図に示した。

実施例 2

実施例1のロックウールに代えて木材パルプを、第1図の型紙に代えて第3図の型紙を用いて、実施例1と同様にして芝草の生育を行った。播種後20日目の芝草の状態を第4図に示した。

比較例

実施例1のロックウールに代えて山土を用いて実施例1と同様にして芝草の生育を行ったところ、播種後6日目に発芽したが発芽むらがあり、第2図に示したようなきれいな形状にならなかった。

4. 図面の簡単な説明

第1図は実施例1で用いた型紙であり、

第2図は実施例1で育生した芝草の状態を示す、

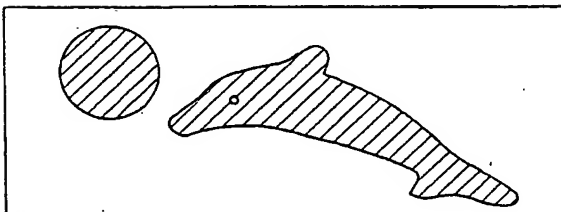
第3図は実施例2で用いた型紙であり、

第4図は実施例2で育生した芝草の状態を示す。

尚第1図、第3図において斜線部分を切り抜いた。

代理人 川口 義雄
代理人 中村 至武
代理人 船山 武

第 1 図

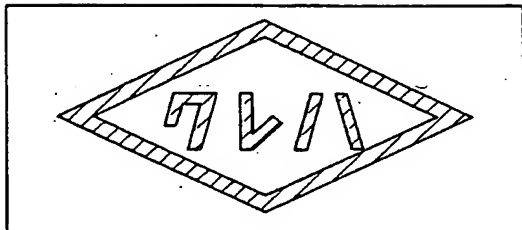


第 2 図

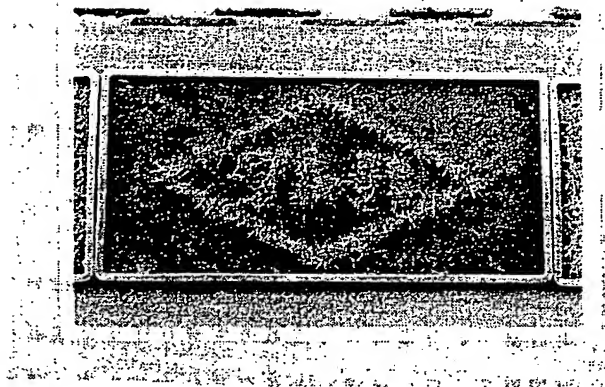


BEST AVAILABLE COPY

第 3 図



第 4 図



BEST AVAILABLE COPY